

## 2010南あわじ食と文化の市民まつり

市制5周年記念

2010南あわじ食と文化の市民まつりが、10月16日と17日の両日開催されました。前夜祭の16日は緑市民センターで、老人クラブ選抜と公募での参加者による市民カラオケ発表会などで盛り上がりを見せ、17日には秋空のもと、淡路ふれあい公園で「ステーキイベント」と「食の市」が催されました。

子どもからお年寄りまで、幅広い層の市民が参加しての文化芸能の披露やプロの歌謡ショーが行われたほか、今年市制5周年を記念して「少年少女勝ち抜けクイズ大会」が行われて、観光名所や特産など、南あわじ市に関するク



▲五尺踊保存会による郷土芸能披露。中学生による吹奏楽や和太鼓、保育園児の合唱や小学生の郷土芸能の披露なども行われました



▲餅つき体験・振舞い

イズで、子どもたちや来場者に郷土の魅力や知識を再発見してもらおう機会となりました。

また、「食の市」では玉ねぎや野菜などの特産物の販売や餅つき体験・振舞い、バター作り体験などで、南あわじの食の魅力をつぶり満喫していただきました。



▲今年とれた地元産もち米で作ったお餅で「餅まき」が行われました



▲食の市では、「朝市」など様々な出店や「盆栽展」もあり、17日は約4,500人の来場者で賑わいました

## NHKのど自慢

南あわじ市市制5周年を記念しNHKのど自慢が10月10日、文化体育館で行われました。前日には予選会が行われ、約250組の人たちが自慢のどを披露し、本選へ20組の人が選出されました。市からも9組が出場。会場には全国各地から約1300人の観客



▲手をつないで歌う古井さんと道上さん

特別賞に選ばれた古井敏彦さん（92歳・松帆）と孫の道上元気さんは、「二人で歌ったので緊張はしなかった。心一つにして歌いました。また機会があれば出場したい」が集まりました。

本番前に、中田市長から、「全国放送であるのど自慢が当地で開催でき、南あわじ市をPRできることは大変うれしい」と挨拶がありました。出場者は思い思いの衣裳やパフォーマンスで、自慢の歌声を会場に響かせていました。



▲のど自慢の本選の様子

南あわじ市特別職報酬等審議会（榎本悟朗会長）が10月13日、第2次答申を行い、市議会議員の給料月額を10%引き下げよう答申しました。

今回、議会議員についても、同審議会が公正・中立な立場で慎重に審議した結果、減額すべきと答申しました。また、「非常勤特別職」の交通費について、市外や沼島に在住する場合は、除いて、廃止するよう答申しています。



▲中田市長に答申する榎本会長（左）と志智副会長

## 南あわじ市を売り出そう！物産展に出店

西宮、大阪

地元の農水産物や淡路瓦などを販売・PRしようと、「南あわじ市特産物販路拡大・物産展協議会」が、「西宮酒ぐらルネサンスと食フェア（10月2・3日）」と、「大阪あきない祭り2010（10月10・11日）」に出店しました。

▲淡路手延素麺の振る舞い

ぎや地元産野菜、乳製品、アイスクリーム、地酒など。沼島漁協や素麺組合、青空市、瓦組合等が出展し、ぬしま鮭の塩焼きや小エビの塩茹で、淡路手延素麺の振る舞い、鬼師による鬼瓦製作の実演、だんじり唄披露など、都市生活者が見て、食べて、楽しめる「ふるさと資源の宝庫」南あわじ市の魅力を発信しました。



▲ぬしま鮭の塩焼きの振舞い

## JAあわじ島が学校給食に新米提供



▲榎列小学校で児童と新米を食べる倉本満之組合長（右奥）と中田勝久市長（左奥）

に地元産の新米「キヌヒカリ」432kgを寄贈されました。寄贈は今年で3年目。新米は津井地区で生産されたものとなります。

9月29日と10月4日には、学校給食センターで炊飯され、ほかほかの新米が市内小中学校の口に届きました。



▲お米を食べる児童たち



▲目録を寄贈する倉本組合長

## ふるさと納税

ご寄附ありがとうございます。

### ふるさと南あわじ応援寄附金

寄附状況の公表 (10月16日現在)

区分	件数	金額
南あわじ市内	331件	44,202,219円
市外(島内)	47件	5,871,000円
市外(島外)	209件	27,664,940円
合計	587件	77,738,159円

詳細は市のホームページに掲載しています

## ふれあい市長室

### 菅総理大臣と面談、淡路島に活力を！

南あわじ市長 中田勝久

先日菅総理大臣や連舩行政刷新担当大臣等に、井戸知事や建築家の安藤忠雄氏などとともに面談してまいりました。

内容は、政府が打ち出している新成長戦略の一環として、平成23年度予算に823億円の特別枠を新規に創設しようとしている「地域活性化総合特区」への認定に関する陳情です。菅総理からは、若い頃淡路島を訪れ慶野松原で泳いだ時のことを思い出し、淡路島の活性化を応援させてもらうとのお言葉をいただきました。

総合特区は、申請があつた全国各地のやる気や本気度に基づき、優先順位を付け認定されるもので、規制の特例措置や税制優遇、財政支援などをパッケージにして実施するものです。

全国400か所以上の申請があり、競争率が非常に厳しい状況にあります。我が市が、取り組むことに井戸知事が大変熱心に取り組んでくださっております。

この申請は、特区に対する制度設計のための提案募集に対し行うもので、淡路島として、総合特区「あわじ環境未来島構想」を提案

と話してまいりました。なお、予選会の模様は11月5日（金）の午前1時30分から4時までNHK総合テレビで放送されます。

少など重要課題が山積みです。批判評論や他人依存、頭を抱えているだけでは改善はできません。国・県の支援や補助金が激減し、地域主権改革が叫ばれる中、地域が自ら考え、市民が自ら積極的に行動し、行政が全面的なバックアップ体制を整え、ふるさとがまると確信しております。座してチャンスを待つのではなく、動いてチャンスを掴む時代です。才能・経験豊富な人材は沢山あります。是非とも市民の皆様を地域のために、より一層役立てていただくようお願いいたします。